



歴史に磨かれた知性、伝統に未来が息づく街づくり



傳通院本堂

1603（慶長8）年、徳川家康が母の遺骨を埋葬したのにちなみ、傳通院と呼ばれます。將軍家の菩提寺として増上寺、寛永寺と並ぶ江戸の三靈山として栄え、その威容は『江戸名所図会』等でも知られます。数々の近代文学作品に登場しますが、戦災で施設の多くを失いました。現在の本堂は1988（昭和63）年に再建。山門は2012（平成24）年の再建です。



こんにやくえんま（源覚寺）

源覚寺の別称の由来となった「こんにやくえんま像」は、鎌倉時代に作られた高さ1メートルほどの木造閻魔坐像。江戸中期、老婆が祈願し眼病が治った感謝のしるしに好物のこんにやくを断って供えたことからこの名で呼ばれます。閻魔像の右目が黄色く濁っているのが特徴。現在も眼病治療などのご利益でこんにやくのお供えが多いとか。



イラストは、ふるさと画家 上野啓太の作品です。

春日・後樂園駅前地区 市街地再開発事業